

大津港活性化・再整備実施計画について

1 大津港活性化・再整備実施計画(素案)の概要

位置づけ	大津港活性化・再整備基本構想(R7.3策定)に基づき、 <u>ソフト事業・ハード整備を誰がどのように取り組んでいくかを具体化するもの</u> 官民連携のもと、大津市のまちづくりに係る取組や民間事業者との取組とも整合し、相乗効果を目指す スケジュールは、 <u>取り組む内容を今後3・5・10年の3段階で規定</u>
対象範囲	大津港をヒト・コト・モノの結節点および琵琶湖の玄関口ととらえ、 <u>大津港のみならず、周辺地域や琵琶湖・他地域エリアも含むものとする</u>
ターゲット層	<u>周辺住民のみならず、国内・海外旅行者を広く呼び込むことを目指す</u>



現在の大津港



現在の大津港(ターミナルビル付近)

2 実施計画(素案)の検討状況について

- ・検討会※にて、大津港周辺のにぎわいづくりに向けたハード整備やソフト事業について議論
- ※国・県・市の関係部署、関係事業者、商工会議所、観光協会、自治会、学識経験者等
- ・港湾施設では、(1)港湾緑地、(2)びわこ花噴水、(3)係留施設を重点的に再整備する方針
- ⇒実施計画(素案)を作成し、検討会で意見交換を行いながら、精査を図っている。

(1) 港湾緑地【図1 ①・②緑色 ③茶色】

- ・港湾施設内外の回遊性の向上・人流増加を目指し、全体の施設配置を整理
- ・民間資本導入(みなと緑地PPP等)によるにぎわい施設(物販・飲食施設、湖上レストラン)の設置
- ・琵琶湖を一望できるビューポイントの設置
- ・みなとオアシス(R8登録)による活性化を見据えた滞在・イベント空間を整備
- ・【R8先行着手予定】新文化館開館に合わせた建物前のエントランス空間を再整備

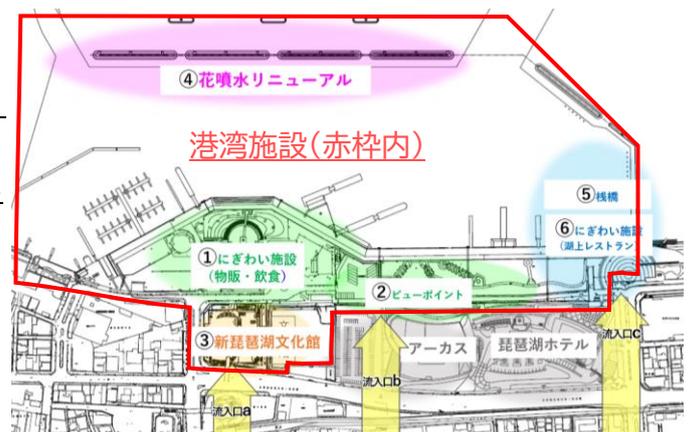


図1 全体施設配置案(※内容調整中)

⇒[今後]まちづくりの視点を含め、連携策を大津市・周辺施設事業者等と継続調整。



新琵琶湖文化館前の
エントランス空間再整備



にぎわい施設
(事例: ONOMICHI U2)

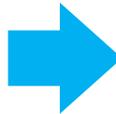


港湾緑地の照明改善イメージ

(2)びわこ花噴水【図1 ④ピンク色】

- ・大津港のシンボルとしてナイトタイムエコノミーの創出も含め、再整備を検討
- ・コンセプトや演出・機能を検討中。世界に誇れる魅力ある噴水施設にする。
- ⇒[今後]整備費用、整備効果を総合的に勘案し、再整備案を決定していく。

		現行	再整備後イメージ (案)
コンセプト		「夢の架け橋ウォーターブリッジ」 琵琶湖の雄大さや豊かさを表現	「夢の架け橋ウォーターブリッジ」 + α
機能 演出	水流	平面的に噴出	立体的に噴出、動的演出の追加など
	ライト	3色(白・オレンジ・緑)ハロゲン灯	フルカラーLED、緑地との連動演出



(3)係留施設(棧橋等)【図1 ⑤・⑥水色】

- ・観光船用の棧橋の機能強化
→周遊観光プログラム(文化財巡り等)・次世代モビリティへの対応、災害対応機能の拡充
→琵琶湖周辺の他港湾・文化観光資源との連結の強化
- ・湖上レストラン等の誘致
→ロケーションを生かした視点場づくりや夜間利用時間の拡張による高付加価値化
- ⇒[今後]利用状況を勘案し、再整備案を決定していく。



3 今後のスケジュール

- ・事業者ヒアリングや大津市・関係事業者等との調整結果等を踏まえて再整備案を決定
- ・令和8年6月を目途に実施計画の策定・公表を行う。

R8.2月	第3回検討会 (実施計画素案へ反映)
3月	大津市・周辺施設事業者等、各関係者との調整継続
4~5月	第4回検討会 (実施計画最終案の検討)
6月	実施計画の策定・公表



【参考】 大津港活性化・再整備実施計画の概念図

